

平成22年度「サイエンスキャンプ（SPP合宿型学習活動）」
に関する受入実施機関の募集について

（趣旨）

サイエンスキャンプは、夏期休業・冬期休業・春期休業の期間中、高等学校、中等教育学校後期課程、高等専門学校（1～3学年）等に在籍する生徒が、最先端の科学技術を直接体験・学習できる2泊3日の科学技術体験合宿プログラムです。

本プログラムは、次代を担う青少年が、先進的な研究施設や実験装置がある研究現場で実体験し、第一線で活躍する研究者、技術者等から直接講義や実習指導を受けることにより、科学技術に対する興味・関心を高め、学習意欲の向上を図り、創造性、知的探究心等を育てることをねらいとしております。

平成21年度は各機関のご協力のもとに、年間を通じ79会場で合計1,050名の募集定員（参加者は公募により選考）で実施しています。

平成22年度も、更なる充実したプログラムの提供を目指して、受入実施機関の募集を行います。

なお、本公募の実施については、平成22年度政府予算案の成立を前提としています。

※参考：

サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（以下「SPP」という。）は、様々な最先端の研究成果や研究施設・実験装置等を有する大学、科学館・科学系博物館、公的研究機関、民間企業、学会等と、小学校、中学校、高等学校等の学校現場との連携により、児童生徒の科学技術、理科・数学に関する興味・関心と知的探究心等を育成することを目的としています。

公募により以下のプログラムを行っています。（詳細は：<http://spp.jst.go.jp/>）

- ・ サイエンスキャンプ（合宿型学習活動）
- ・ 講座型学習活動

（募集対象機関）

- ・ 大学
- ・ 公的研究機関
- ・ 民間企業

（募集機関数）

- ・ 受入実施機関数 約80機関（予定）

（受入実施機関としての役割及び留意点）

別紙1をご参照ください。

（提出書類）

本募集のホームページ（URL：<http://spp.jst.go.jp/>）から応募書類をダウンロードして、「実施計画書」を作成して提出してください。なお、作成にあたっては、「サイエンスキャンプ実施計画書」の作成についてを参照してください。

(公募受付期間)

平成22年1月18日(月)～平成22年2月12日(金)(必着)

(選定)

企画提案内容、前年度までの取組み実績、実施分野、地理的条件等を勘案し、外部の有識者等から構成される委員会の審議に基づいて、JSTにおいて受入実施機関を選定します。

選考結果は、平成22年3月上旬に郵送にて通知します。

(応募書類の提出方法)

「実施計画書(要押印)」を作成して下記に①郵送するとともに、②メールで下記アドレスに送付してください。

(提出先・お問合せ先)

独立行政法人科学技術振興機構

理数学習支援部(才能育成担当)(亀井、平川、中島)

〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3

TEL 03-5214-7053 FAX 03-5214-7635

e-mail : scamp@jst.go.jp

(◎を小文字の@に変えてください。迷惑メール防止にご協力ください。)

受入実施機関としての役割及び留意点

1. 前提条件

(1) キャンプの開催時期

夏期休業（平成22年 7月24日（土）～平成22年 8月30日（月））

冬期休業（平成22年12月23日（水）～平成23年 1月10日（月））

春期休業（平成23年 3月19日（土）～平成23年 3月30日（水））

※上記期間のうち、開催希望の時期を選択してください。

(2) キャンプの期間

2泊3日

※実習実験を伴う探求的な活動を中心とするプログラムの場合は、3泊4日の提案も受け付けます。

(3) 開催希望人数

1会場あたり10～20名程度（採択後に調整あり）

※少なくとも10名以上でご提案ください。20名を超える提案も受け付けます。

(4) 開催に伴う役割分担

<p>(共催) 受入実施機関の主な作業及び役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・募集要項作成への協力、応募者の選考 ・プログラムの作成 ・テキストの作成 ・施設の提供 ・参加者の引率（昼間） ・宿泊施設の提供（不可であればJSTが手配） ・食事（昼食等）の手配 ・交流会の開催（受入機関が企画した場合に実施） ・実習に必要な設備等の提供、消耗品の準備 ・サイエンスキャンプ実施に伴う事前説明会への参加 ・その他サイエンスキャンプ実施に必要な事項
<p>(主催) JSTの主な役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の募集 （高等学校等、教育委員会、関係機関への広報、募集要項、チラシ等の作成） ・受入実施機関との調整（必要経費・プログラム・指導体制・安全確認他） ・実施に伴う消耗品等の負担 （参加者1人当たり15,000円以内） ・ティーチングアシスタント(TA)費の負担（負担上限あり） ・参加者の宿泊費用・傷害保険料の負担 ・アドバイザー(高校教諭)の配置 ・実施に伴う各種会議の開催 ・その他サイエンスキャンプ実施に必要な事項

※自宅から会場までの交通費については参加者の自己負担。

(5) 留意事項

①参加者の募集等の広報はJSTにて行いますが、各受入実施機関における応募者の選考については各受入実施機関にてご判断いただきます。なお、参加者の応募状況によりプログラムの実施が成立しない場合もございますので、あらかじめご了承ください。また、開催希望時期については、調整させていただくことがあります。プログラムの実施に伴う消耗品費等として、参加者1人当たり上限15,000円をJSTが負担いたしますが、必要な消耗品等の準備は受入実施機関にて行っていただきます。なお、受入実施機関にて取りまとめた経理書類に基づきJSTまたは事務局を委託した機関が直接支出手続きを行います。

②各受入実施機関においては会場費、光熱水費、講師等の人件費（TA：ティーチングアシスタントが必要な場合は採択後別途調整。負担上限あり）、上記予算では賅えない消耗品等については各受入実施機関にてご負担願います。

③実施に向けた安全管理、プログラム内容等に関する具体的な事項は、受入実施機関の選定後、再度事前打合せのうえ、決定させていただきます。

④会場の構内または近隣に付帯する低価格で利用可能な宿泊施設がある場合は、その手配も含めてご提案ください。実施予算の有効活用の観点からご協力をお願いします。

2. プログラム内容に関する留意点

①それぞれの受入実施機関の特徴を生かしたテーマの実習、実験、観察を重視する内容としてください。施設見学に偏りすぎず、できるだけ実習実験を中心に組み立ててください。

②プログラムの進め方については、導入の講義から実験や実習に入るようにし、必要に応じて実験のまとめの時間を入れる内容としてください。最終日には、発表又はディスカッションの時間を入れる内容としてください。

③出来る限り生徒に考えさせて理解度を確認しながら進めることとし、なるべくテーマをしぼり、内容過多にならないよう注意してください。

④先進的な科学技術や基礎研究を、高校生が理解できるプログラム作りに配慮願います。

3. 参考

平成21年度までの開催状況につきましては、以下をご参照ください。

<http://ppd.jsf.or.jp/camp/>

以上